

「しかけ」の演出

雰囲気作り

「アイスブレイク」と呼ぶ活動があります。初対面の人同士が出会う時、その緊張をときほぐし、集まった人を和ませ、コミュニケーションをとりやすい雰囲気を作る活動です。例えば、「じゃんけん」を使い徐々に心を開き、「自己紹介」につなげます。和やかな雰囲気で初対面の人と出会い、その後の活動をスムーズに進めることをねらいとしています。

「しかけ」の
重要性

先日、児童クラブ、放課後子ども教室等の教育支援員の方々の研修会がありました。短い時間の「アイスブレイク」で参加者の方が笑顔になり、その後の交流の時間が活発になりました。それは、参加者のモチベーションが高いことはもちろんのことですが、「アイスブレイク」という「しかけ」の成果でもあります。

活動の過程の
重要性

よりよい集団になるには、様々な「しかけ」が必要とされています。「知り合うための活動」からスタートして「緊張をほぐすための活動」「意思疎通を図るための活動」「信頼関係を確認する活動」「課題解決のための活動」等に分類ができます。支援者は目の前のグループをしっかりとらえて、「今のグループの状態は?」「その活動は、今のグループに合っているか?」と常に問い続ける必要があります。それは特別な活動をする場面だけでなく、日々の教育活動全てに共通することでしょう。

日々の
取組の中で

2学期に入り、子どもたちは他者と関わり合う活動が増えていると思います。様々な「しかけ」をクラスのみんなの共通の体験にし、個人やクラスの成長につながる学びを得て欲しいですね。



～社会教育・文化財課のHPで、「心の冒険・サマースクール」「AFPY」の取組を御紹介しています。～

AFPY

検索

子どもたちと保護者が一緒に活動する時におススメ！

教科・領域	保護者会、学年活動	時間	15分程度
準備物	なし		
活動の実際 ※留意点	<p>①2人組になり、じゃんけんをする。</p> <p>②勝った人から自己紹介をする。</p> <p>(例)・自分の名前(保護者会の場合には、「〇〇の母 or 父です」等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現在、はまっているもの(こっているもの)は、〇〇です。」 ・「子どもの特徴は、〇〇です。」 <p>※参加している人数を考慮し、1回の紹介の目安となる時間を伝える。</p> <p>※交代の際に合図(鈴や声)を出すと全体の流れをコントロールできる。</p> <p>※「4コーナース」(紙を4等分し、自分や子どもを紹介する4つの言葉を書く)にするとより多くの情報を共有することができる。</p> <p>③何か質問があれば聞き、もう一人が同じ流れで自己紹介する。</p> <p>④「ありがとう」と言いながらハイタッチをして次のペアづくりをする。</p>		
ふりかえり	<ul style="list-style-type: none"> ・みんなのどのようなことを知ることができましたか？ ・最初に比べて、話し易さに変化はありますか？ 		
継続的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ・最初の保護者会では、15分くらいとるが、2回目以降、10分程度で繰り返していくことで、誰もが緊張せずに保護者会に参加できる。 ・学級懇談会だけでなく、学年懇談会でも活用する。 ・学年活動で少し時間を頂き、子どもと保護者バージョン(子ども⇄子ども、保護者⇄保護者、子ども⇄保護者等、様々なバージョンが可能)で活用する。 		
保護者の感想や変容	<ul style="list-style-type: none"> ・とても話し易い雰囲気の中で保護者会に参加できて良かったです。 ・テーマに沿って、こんなに意見を交流することができたのは初めてでした。 ・学級懇談会だけでなく、学年活動でもして、他の学級の子どもたちや保護者の皆さんとつながりたいです。(実際に行ったのが下の写真です) 		
実践者からのひとこと	<p>・保護者と教師がつながり、保護者同士がつながる絶好のチャンスが保護者会です。学級経営方針や学級の様子を伝える、保護者にあるテーマについて考えてもらう等、いずれの目的においても、保護者同士がまずは知り合い、気兼ねなく何でも話ができる環境づくりが重要となります。この環境づくりができると、保護者会が保護者にとっても教師にとっても楽しく価値のある時間になり、保護者が教師の強力な味方になってくれて、Win-Winな関係になります。</p>		

(下関市立一の宮小学校 新内俊允先生による実践)



AFPY in 学級懇談会

保護者の輪
を拡げる



AFPY in 学年活動